

令和4年6月24日(金)

啓成公民館大学「啓成がくゆう会」歴史講座

## 西伯耆の山城と米子十八町

米子市文化振興課専門官 中原 斉

はじめに 米子城について

1. 西伯耆の山城
2. 城下町の構造
3. 米子十八町のなりたち
4. 啓成地区の歴史文化遺産を歩く



西伯耆を代表する山城・手間要害(南部町)

今日の歴史講座のテーマ・・・

### 「米子の町のなりたちは西伯耆の山城にあり!？」

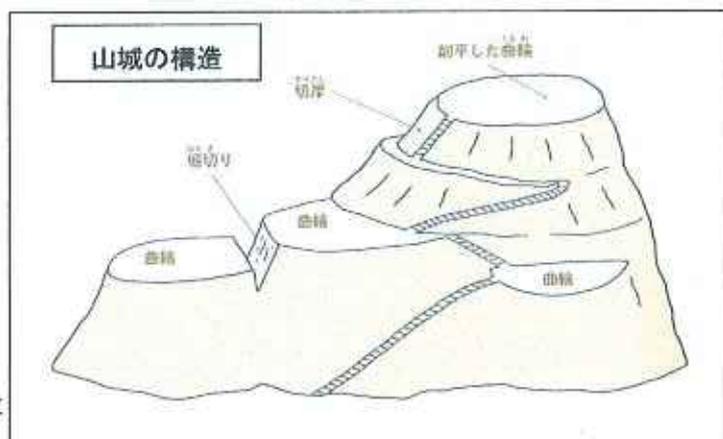
#### 1 西伯耆の山城

「山城」とは中世城館の代名詞、そして中世城館とは口の城

鳥取県中世城館分布調査の結果、因幡国(鳥取県東部)292城、伯耆国(鳥取県中・西部)212城 / 合計504城

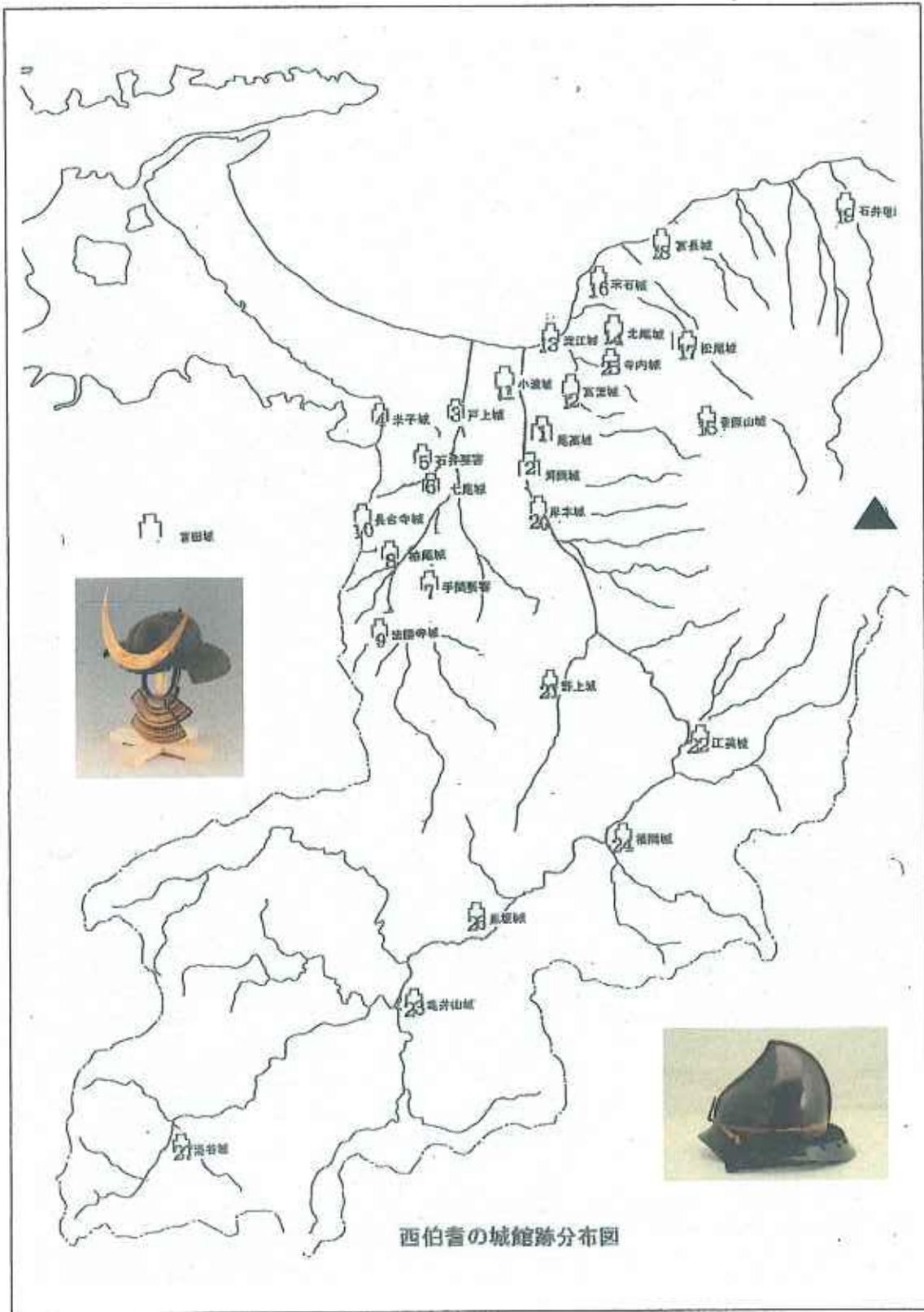
『鳥取県中世城館分布調査報告書第2集(伯耆編)』2004 鳥取県教育委員会

米子市内(旧米子市11城・旧淀江町8城)19城は多いとは言えない。  
対して日南町39城、日野町23城、南部町20城の山間部が顕著。

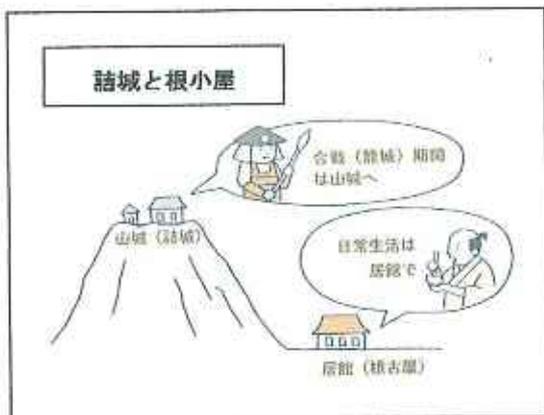


千田嘉博監修

『日本の城辞典』2017 ナツメ社



西伯書の城館跡分布図



千田嘉博監修

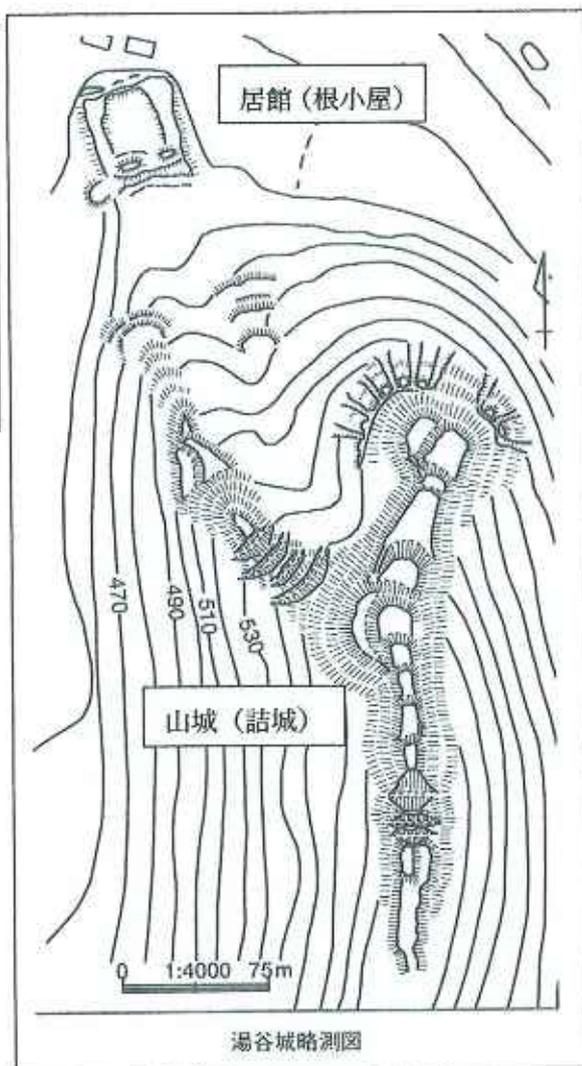
『日本の城辞典』2017 ナツメ社

日南町湯谷城

詰城と根小屋がセットになる山城の典型



尾高城跡

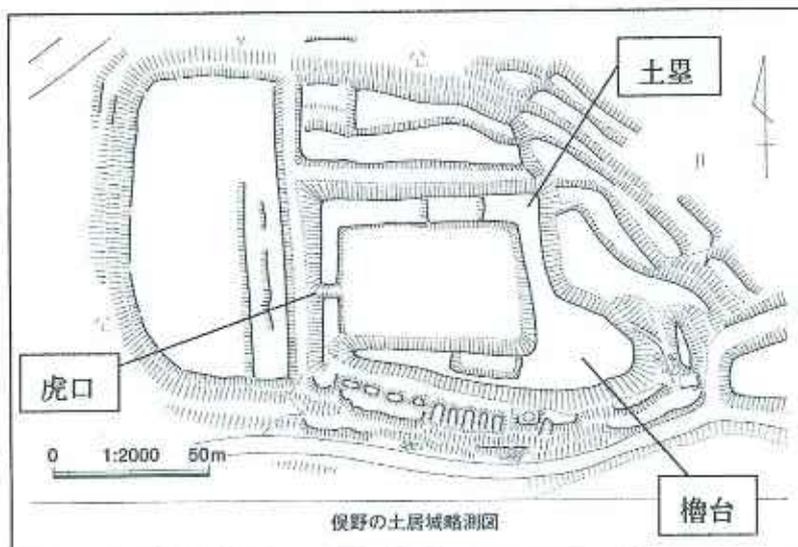


中世城館は、立地という点では山城と平城に分類できるが、地形に左右される。伯耆国では大山山麓のなだらかな地形に単独の方形郭を持つ例が多いのが特徴。

俣野の土居城

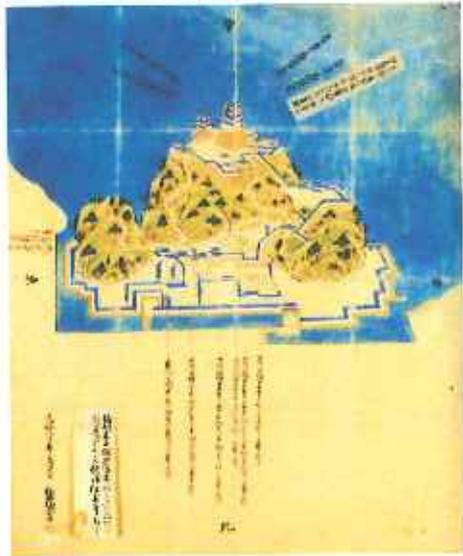
大山山麓の方形館の典型

土塁で囲まれた方形館

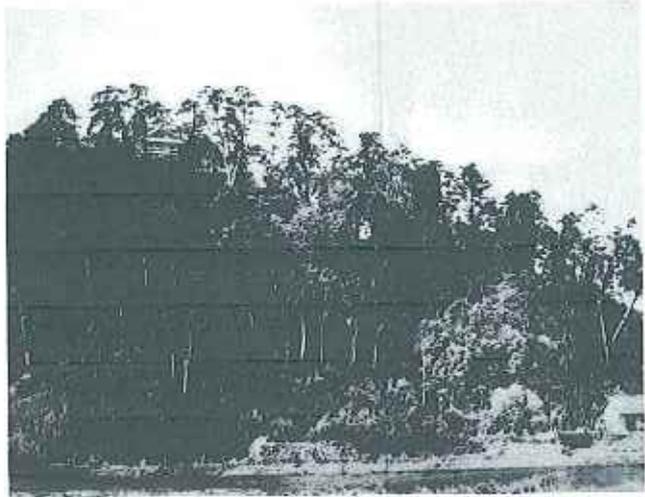


○西伯書における中世城館の変遷～多数の山城→米子城 1 城体制へ

- ・鎌倉・室町時代（山名守護家と小国人領主）                      方形館・詰城と根小屋
- ・戦国時代（尼子・毛利の戦乱）                                      防衛力を強化した山城の発達
- ・吉川広家 月山富田城（山城）→米子城（海城）築城開始  
— 関ヶ原の戦い（1600） —
- ・中村一忠 米子城完成    近世城郭（石垣の城）の成立



『米子城修復願絵図』（元禄3年）



米子城天守古写真（明治10年頃 山本良種撮影）

- ・加藤・市橋・関氏期（1609～1617）／米子城、黒坂城、八橋城、倉吉（打吹）城  
— 慶長20（1615）年の「一国一城令」で藩主の居城を除いて廃城 →破城・城割り
- ・池田光政（1617）、池田光仲（1632）、因幡国の鳥取城、伯耆国の米子城を除いて廃城  
黒坂・八橋・倉吉は陣屋



黒坂鏡山城跡（関一政居城）



福田氏黒坂陣屋絵図（鳥取池田藩期）

## 2 米子城下町の構造

■内堀から内側・・・城

■内堀と外堀の間・・・武家地

米子組士（鳥取藩士）と荒尾家家臣  
侍が少なく、空き屋敷が多い。



唯一残る武家屋敷遺構・小原家長屋門

■外堀より外・・・・町人地（米子十八町）



## 3 米子十八町のなりたち

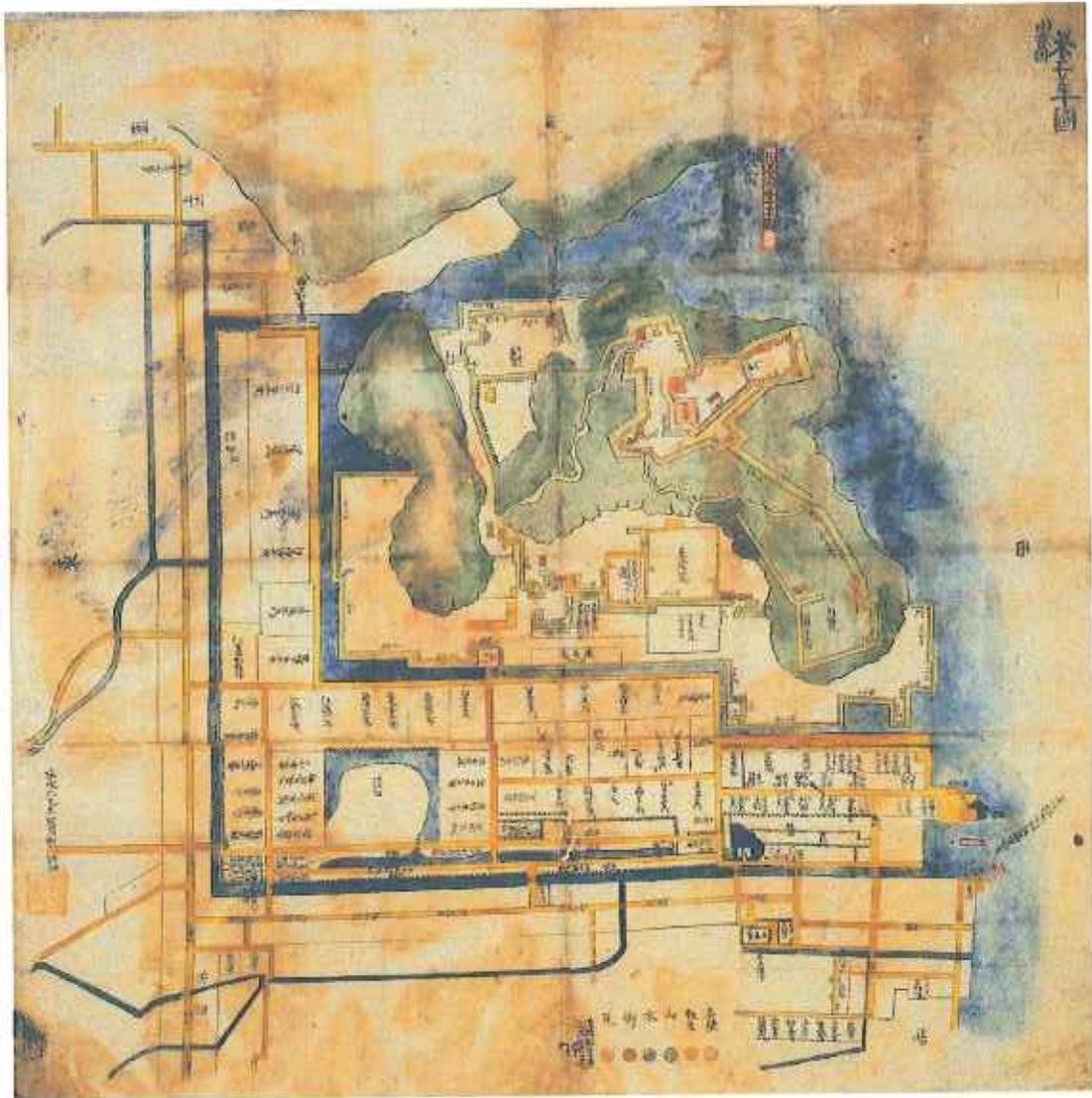
—外堀沿いにし字形に並ぶ町家—

外堀（加茂川）内に内町・天神（片原）町

中海側から灘町・立（塹）町・岩倉町・尾高町・西倉吉町・東倉吉町・四日市町・紺屋町・  
法勝寺町

橋屋の辻を曲がって道笑（正）町・日野町・茶町・塩町・大工町

反対側に出雲街道を糶（新）町・博労町



『伯耆国米子平図』(宝永6年4月9日)

#### 町の由来

■伯耆各地の城下町から移してきた町

法勝寺町(法勝寺城下町)、日野町(江美城あるいは黒坂城下町)、尾高町(尾高城下町)、東倉吉・西倉吉町(倉吉城下町)、岩倉町(岩倉城下町) 四日市町(戸上城下町)

※なぜ八橋町(八橋城下町)はないのか?

■職人や町人の住む町

大工町、塩町、茶町、紺屋町、糺町、博労町、道笑町

■外濠内外にあった古町

内町、天神町(片原町)、灘町、立町(堅町)

#### 4 啓成地区の歴史文化遺産を歩く